

熊本保健科学大学 新レストラン

Kumamoto Health Science University New restaurant

No. 16-051-2021作成

改修・保全
学校

発注者	学校法人 銀杏学園 熊本保健科学大学	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	戸田建設株式会社 九州支店 一級建築士事務所 TODA CORPORATION	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	戸田建設株式会社 九州支店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

過去と未来をつなぎブランドイメージを高めるキャンパス計画

本プロジェクトは九州トップレベルの保健医療系大学（熊本市）におけるレストランの整備計画である。

学生数の増加に対応するため既存アリーナに増床してレストランへ改造する事を求められた本計画は、建屋内だけでなく建屋外にも増床する事で既存アリーナの大空間を活かしたレストランを目指した。

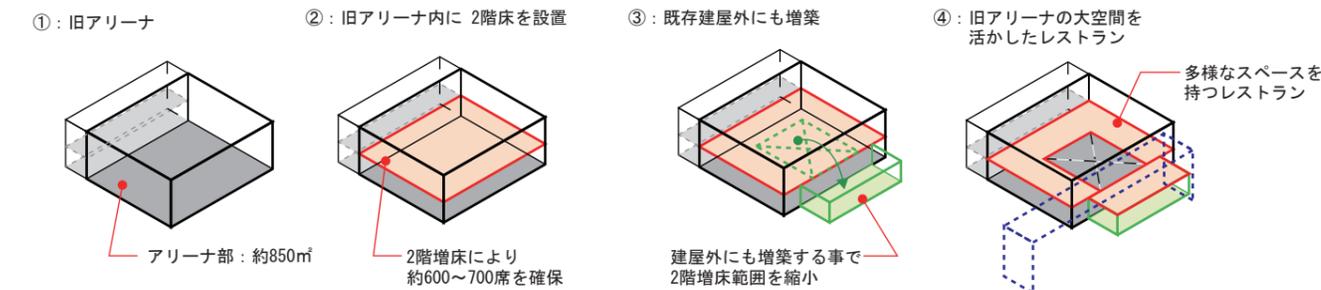
また、建屋外増築部分はフロントゲートと名付けた高さ約9.0Mの新たな正門と一体的に構成する事で大学の新たな顔を創出すると共に、キャンパス内の軸線であるメディアストリートの再整備により、キャンパス全体としての施設価値向上を目指したプロジェクトである。



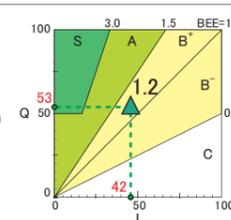
旧正門（改修前）



外観写真



建物データ	所在地 熊本県熊本市 竣工年 2020年 敷地面積 51,663㎡ 延床面積 1,960㎡ 構造 S造 階数 地上2階	省エネルギー性能 PAL削減 26% ERR (CASBEE準拠) 17%	CASBEE評価 B+ランク BEE=1.2 2014年度(改修版) 自己評価
-------	--	---	---



既存大空間を活かしたレストラン章

約600～700席を有する新レストランとするには旧アリーナの2階レベルに増床する必要があり、アリーナが有する大空間が失われてしまう。そこで、既存建屋外にも増築する事で建屋内増床範囲の縮小を図り、旧アリーナの大きな空間を活かしたレストランとなるよう計画とした。

1階は建屋外に増築する事でレストランとしての利便性を考慮しながらも大人数での利用等、利用状況に応じた什器レイアウトが可能な大スペースを確保している。2階は食事だけでなく勉強や学生同士のコミュニケーション等を気軽に出来るラウンジ的なエリアとすることで1つの大空間に多様なスペースをつくり、学生が常に集まる場となる事を意図している。



内観写真（改修前）

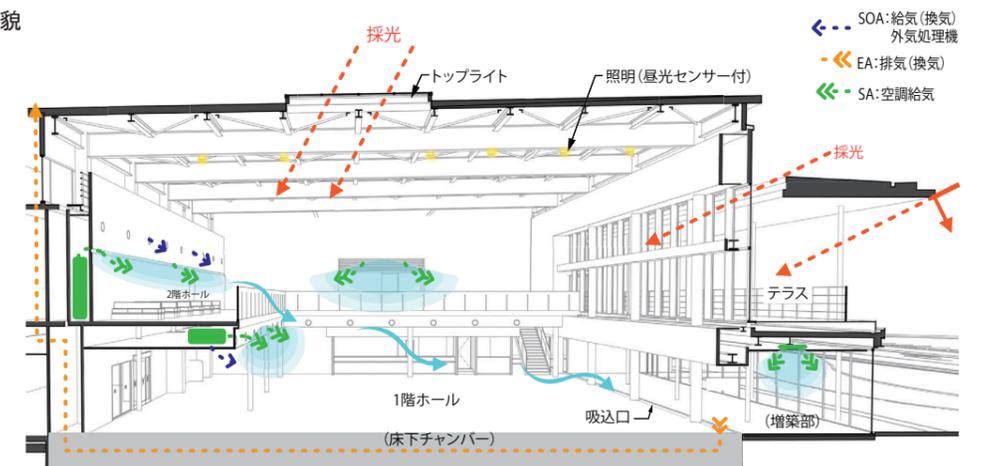


内観写真

アリーナからレストランへの変貌

建屋外増築が接続する既存壁面部は全面開口とする事で採光だけでなく敷地周囲の豊かな自然環境への眺望確保やキャンパスを歩き交う学生同士の交流促進等も期待して計画した。

さらに既存屋根面にトップライトを設ける事で自然光を感じる事が出来る明るく開放的なレストランとなるように計画した。



断面パース

設計担当者

統括：荒木 英次／建築：鈴木 雄／構造：名智竜哉／設備：金子 寛、田口 文久

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3 対応性・更新性（大空間）
- Q3. 2 まちなみ・景観への配慮（新たな大学正門の形成）
- LR1.1 建物外皮の熱負荷抑制（複層ガラス）
- LR1.2 自然エネルギー利用（トップライトによる自然採光）
- LR1.3 設備システムの高効率化（LED照明）
- LR2.2 非再生性資源の使用量削減（既存躯体の継続使用）